

令和3年度認定

【計画名： 姫路市立美術館を中核とした文化観光推進拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者の満足度(%)	82	93	113%	85	87	102%	88		92		-	
美術館への来館者数(総数)(人)	69,000	71,214	103%	87,000	66,438	76%	92,300		97,600		-	
美術館への来館者数(外国人)(人)	690	15	2%	870	387	44%	1,740		3,065		-	
姫路城・圓教寺等との周遊来館者数(人)	7,600	6,257	82%	10,800	4,929	46%	14,000		17,200		-	
市内延べ宿泊者数(千人)	1,203	993	83%	1,434	1,239	86%	1,505		1,577		-	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「来訪者の満足度」の向上については、各年度の招聘作家による監修のもと、作家の作品を網羅的かつ大胆なレイアウトで展示したことや、館蔵作品を招聘作家作品と組み合わせて大規模に展示した点が評価を受けたものと考えられる(来館者アンケートより)。 「美術館への来館者数(総数)」について、R4が目標値に達しなかったのは、圓教寺での展示(事業1-③)への来場者(11,749人)を美術館での展示(事業1-④・1-⑤)に呼び込みきれなかったことが大きな要因の一つであると考えられる。 「美術館への来館者数(外国人)」については、R3に比べてR4は新型コロナウイルス感染症の影響が改善したものの、本格的なインバウンドの回復には至っておらず、依然として厳しい結果となった。 「姫路城・圓教寺等との周遊来館者数」について、R3は事業1-③で幅広い世代の、普段は美術館になじみの少ない客層も対象としたワークショップやイベントを、圓教寺をはじめ市内各地で多数実施し、その際に美術館での展示(事業1-④・⑤)についても案内を繰り返したが、目標値には達しなかった。R4については、圓教寺を会場とした事業1-③と、美術館を会場とした事業1-④・⑤との企画の関連性や、展覧会開催情報について紐づけて周知することが十分ではなかった結果、周遊を促しきれなかったと考えられる。 「市内延べ宿泊者数」については、R3からR4にかけて増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前(R元年)の1,274千人と比較すると約2.8ポイントの減となっており、依然として宿泊者数の回復には至っていない。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「来訪者の満足度」から見ると、展覧会企画事業(事業1)は概ね計画通り実施できている。 来館者アンケートに「良い展覧会なのに人が少なく残念」とのご意見が多数寄せられているとおり、企画の質を集客に結びつけられていないのが現状。 周遊促進を狙った交通の利便性向上の取組(事業3)も個別には行っているため、広報宣伝の充実と併せて、これら個別の取組をより連携させることで、美術館への来館者増や周遊促進につなげていけるものとする。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
1-①	庭園アートプロジェクト	美術館前庭で、姫路市が誇る工芸品である「明珍火箸風鈴」(兵庫県指定伝統工芸品)の音色をテーマとした「たまはがねの響音と光のインスタレーション」を展示(7/3~9/5)。	美術館前庭で、世界的に活躍する霧のアーティスト・中谷芙二子氏が、姫路城と姫路市の市鳥である白鷺からインスピレーションを得て制作した作品「《白鷺が飛ぶ》霧の彫刻 #47769」を展示(7/16~3/12)。関連イベントも実施。			68.3百万円
1-②	フォーラム	姫路市役所庁舎内で、日比野克彦、杉本博司、中谷芙二子、猪子寿之(チームラボ)、隈研吾が、拠点計画期間中の展示についての構想や姫路市の文化的特色等について独自の視点から語るリレートークを実施(11/1)。 *猪子氏、隈氏はリモート参加	美術館講堂で、日比野克彦、杉本博司、中谷芙二子、野中千正(チームラボ)、隈研吾が、拠点計画期間中の展示についての構想や姫路市の文化的特色等について独自の視点から語るリレートークを実施(10/12)。 *日比野氏、隈氏はビデオメッセージ			
1-③	アーティスト・イン・レジデンス	日比野克彦氏を招聘し、書寫山圓教寺及び兵庫県立いしま自然体験センターを拠点に市内各地でアートプロジェクトを展開する「日比野克彦 明後日のアートの学校 ⇨ 町も海も山も寺も城ももつながるプロジェクト」を実施(4/27~3/31)。	書寫山圓教寺 常行堂(国指定重要文化財)を会場に「圓教寺×杉本博司 Five Elements 五輪塔―地 水 火 風 空」(4/29~8/31)及び「圓教寺×杉本博司 Noh Climax 能クライマックス―翁 神 男 女 狂 鬼」(9/17~12/4)並びに関連イベントを開催。			
1-④	招聘作家展	美術館企画展示室で、日比野氏のこれまでの画業を振り返る大規模個展「日比野克彦 明後日のアート」展(9/18~11/7)及び関連イベントを実施。	美術館企画展示室で、圓教寺所蔵の《性空上人坐像》や姫路城を撮影した新作写真を含む「杉本博司 本歌取り―日本文化の伝承と飛翔」(9/17~11/6)及び関連イベントを実施。			
1-⑤	招聘作家&The Museum Collection	美術館企画展示室で、美術館所蔵作品96点と日比野作品166点による展覧会「The Museum Collection Meets HIBINO 展示室で会いましょう」(11/20~1/16)及び日比野氏による公開制作等を実施。	美術館企画展示室で、杉本氏が提示した「本歌取り」の概念への一つの応答として、当館所蔵作品約90点と杉本作品3点による展覧会「本歌取り式 名画選」(11/19~1/15)及び関連イベントを実施。			

1-⑥	美術館前庭でのユニークベニユーの活用	「ユニークベニユー-HIMEJIプラン」を運用中だが実績なし。	「ユニークベニユー-HIMEJIプラン」を運用中だが実績なし。		
2-①	解説ツール開発	既存のアプリサービスを活用した解説内容充実を検討。	既存のアプリサービスを活用した解説内容充実を検討。		
2-②	多言語解説作成	事業1-③～1-⑤のプレスリリース及び館藏品解説を英語翻訳。	事業1-③～1-⑤のプレスリリース及び館藏品解説を英語・中国語・フランス語に翻訳。		1.1百万円
2-③	姫路城大天守ほか4棟活用環境強化事業及び周辺施設案内強化	姫路城での美術館展示チラシの配架。	姫路城入場口での美術館展示のサインージ広報等。		
3-①	姫路城入場券の半券提示による特別企画展の観覧料割引制度の導入	令和4年度企画展「野田弘志」展より開始予定。	7月～3月の期間中、1,061件を適用。		
3-②	姫路おもてなしクーポンキャンペーン	令和4年度4月開始に向けて調整。	4月より適用開始。 アプリの提示により団体割引を適用。 実績：85件		
3-③	旅行会社向けクーポン券の発行	手数料等の調整のため延期。	手数料等の調整のため延期。		
3-④	市内宿泊施設での美術館前売り券販売	令和4年度実施検討のための市内ホテル関係者との協議を実施。	市内宿泊施設への宿泊者を対象とした割引券を配布。735件の利用実績。		
3-⑤	入館券セット乗車券の販売	乗車券の制作販売・PRを実施。	R3年度実績を踏まえた改善検討期間として中止。		
3-⑥	山陽電車案内センターでの美術館入館券の販売	実施したが販売実績なし。	R3年度実績を踏まえた改善検討期間として中止。		
3-⑦	バス周遊のための企画乗車券の販売	3月から販売したが実績なし。	7月～3月の期間中、364件を販売。		
3-⑧	姫路城プラスワン 観光拠点姫路市立美術館集客事業モニターツアー実施業務	京阪神エリアからの集客をターゲットに1/18に実施。15名参加。	—		
3-⑨	姫路城プラスワン 県外現代美術ファン集客促進 募集型企画ツアーの造成事業	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	神姫バス旅（ジモタビ）にて2022年9月～2023年2月の期間、約1,500名を集客。 ルート 各地→姫路市立美術館（中谷芙二子霧の彫刻）塩田温泉（昼）→関西花の寺→各地		1.0百万円
3-⑩	姫路城プラスワン YUI PRIMAで行く美術館の魅力再発見 特別な体験	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	採算可能性を検討した上で中止。		
3-⑪	着地型旅行商品の造成	R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。R4年度は5月29日に第1回を実施。引き続き実施を予定。	学芸員による解説付きのツアーを計3件造成。 ① 5/29 参加者数15人 圓教寺での展示（事業1-③） ② 6/25 参加者数5人 圓教寺での展示（事業1-③） ③ 10/30 参加者数6人 圓教寺及び美術館での展示（事業1-③、事業1-④）		
4-①	姫路城東休憩施設の整備	休止	休止		
4-②	ミュージアムショップでの兵庫県伝統工芸品の販売	「日本の心象」展会期中（約2か月間）に「明珍火箸」（兵庫県指定伝統工芸品）を美術館ミュージアムショップで販売。（販売実績：8個）	姫路の伝統工芸品である「姫革」のほか、郷土作家による工芸品等を全60種販売。		—
5-①	姫路観光コンベンションビューローとの広報連携	市内宿泊施設向けにR4年度の企画説明会等を実施。	市内宿泊施設向けの情報提供や東京・福岡で開催された旅行会社向け商談会でのR5企画PRを連携して実施。		
5-②	展覧会広報強化	9月～3月の企画について広報業務を委託。計74件のメディア露出。	6月～3月の企画について広報業務を委託。計151件のメディア露出。		
5-③	アート列車の運行	日比野克彦氏によるオリジナルロゴマークを用いたヘッドマーク及びドア横ステッカーによる装飾電車（阪神大阪梅田-山陽姫路間：山陽電車）「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト号」を9月～3月まで運行。事業1-④の会期中、車内吊り広告を展覧会ポスターでジャック。	日比野克彦氏によるオリジナルロゴマークを用いたヘッドマーク及びドア横ステッカーによる装飾電車（阪神大阪梅田-山陽姫路間：山陽電車）「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト号」を4月～3月まで運行。		3.9百万円

5-④	山陽電車発行沿線情報誌への記事掲載	事業1-④及び事業3-⑤の記事を掲載。	中止			
6-①	マスタープランに基づく美術館機能強化	マスタープランを策定。	マスタープランに基づき、段階的に施設設備整備を実施。			—
6-②	美術館内及び庭園Wi-Fi環境整備	未着手	R5実施に向けて予算要求。			
各年度ごとの実績額→		19.6百万円	54.7百万円			74.3百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業1-①は、地元の兵庫県指定伝統工芸品「明珍火箸」をテーマとした展示（R3）や、世界的に著名な作家である中谷芙二子氏による3か年計画による作品展示（R4）を実施したことで、地域の文化資源の魅力発信や子供から大人まで幅広い世代への訴求につながっている。 ・事業1-②では、本計画の主要事業である「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」のコア・アーティスト5人による、姫路での企画の展望や報告、姫路の文化の特色についての独自の言説が蓄積され、地域の文化資源の再発見につながっているが、新型コロナウイルス感染症拡大等の理由により、一般公開での開催を実現できていない。 ・事業1-③では、書寫山圓教寺を拠点として国指定重要文化財をはじめとした多様な文化財を活用した展示を行うとともに、姫路市内各地でもワークショップ等を実施し、地域の文化資源の魅力再発見や磨き上げにつながり、新たな来館者層の獲得にもつながっている。 ・事業1-④では、招聘作家の大規模な個展を行うとともに、姫路の文化等を題材とした招聘作家による新作の制作・展示（R3・R4）及び事業1-③で拠点となった圓教寺所蔵の文化財の展示（R4）を行うことで、地域の新たな文化資源の創出と魅力発信につながった。 ・事業1-⑤では、事業1-④の企画テーマと連携したコンセプトのもと、約90点（R3・R4）の館蔵品の展示を行い、「コレクションの活用」という本事業の目的を果たしてきた。 ・事業1-⑥では、市で運用しているユニークベニューの制度を継続実施しているが、R3・R4ともに申込を受ける機会がなかった。 ・事業2-①では、R3に独自ツールの新規開発ではなく既存のアプリサービス（ポケット学芸員）の活用へと方針を転換し、そのためのコンテンツの充実（解説作成・多言語化等）を段階的に進めている。 ・事業2-②では、「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」のコンセプト及び各年度の事業概要の英語版解説と、館蔵品の多言語解説を段階的に進めている。館内展示解説やHP、SNSでの発信など、ストックされていく多言語解説の活用の充実について、効果的な方法を確立することが今後の課題である。 ・事業2-③では、姫路城入場口で姫路市市立美術館の企画展示のチラシやデジタルサイネージ広報を行ったが、より周遊を促進するための工夫を図りたい。 ・事業3-①では、R4に一定の成果を挙げたが、姫路城への観光客の数に比して依然として実績は少ないため、今後は制度の周知・案内の充実等を通じて実績向上を目指す。 ・事業3-②では、姫路観光コンベンションビューローが姫路市内の飲食店や体験施設、お土産店等で使えるお得なクーポンをまとめたアプリ「姫路おもてなしクーポンキャンペーン」に美術館がR4から参加し、アプリ画面の提示で団体割引の適用を行う事業を開始した。R4の実績は計85件であった。 ・事業3-③では、旅行会社との手数料や事務的な手続きの問題で調整が難航したため、R4終了時点で実績をつくれなかったが、R5には導入を予定している。 ・事業3-④では、「前売り券」という形ではなかったが、市内宿泊施設を利用した方向けの割引券の発行を行い、一定の成果を得た。 ・事業3-⑤では、R3に実施をした結果、販売時期や内容等について来館者のニーズに対応した取組となっていない、あるいは販促の不足が課題として浮かび上がってきたため、R4は実施を中止した。これらの検討の結果を踏まえてR5に再度実施を予定している。 ・事業3-⑥では、R3に実施をした結果、来館者のニーズに対応した取組となっていない、あるいは販促の不足が課題として浮かび上がってきたため、R4は実施を中止した。費用対効果も踏まえた今後の対応について検討中。 ・事業3-⑦では、R3の実施の際に販売時期が遅れたために実績につながらなかったことから、R4では年度当初からの販売を行った。その結果、364件の成果を得たことから、市内周遊促進のための利便性向上につながった。 ・事業3-⑧～⑩では、R3に京阪神をターゲットとしたモニターツアーを行い、その結果に基づくツアー造成をR4に行った。市内観光施設と連携したツアー造成を継続的に実施することが今後の課題である。 ・事業3-⑪では、姫路観光コンベンションビューローが主体となってR4に計3回のツアー造成を行った。R5にも引き続き造成を行う予定となっており、継続的な取組となりつつある。 ・事業4-①は、整備計画自体が休止となっているため、進捗がない。 ・事業4-②では、継続的に地元作家の工芸品等の販売を実施しているが、単に販売するだけでなく、その魅力を伝える工夫を重ねて今後も力を入れて取り組む必要がある。 ・事業5-①では、姫路観光コンベンションビューローが仲介となって、市内宿泊施設への事業説明会や、東京・福岡での旅行会社向け商談会でのPRにつなげることができたが、美術館側の広報準備が後手に回ることでDMOのチャンネルを有効に活用しきれないケースが散見されたのが今後の課題である。 ・事業5-②では、新聞、テレビ、ネットなど多様な媒体を対象に広報資料の提供や取材誘致を行うことで、メディアへの露出を一定数得ることができた。 ・事業5-③では、R3年9月から現在に至るまで、日比野克彦氏がデザインした「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」のロゴマークをヘッドマークにした電車（梅田ー姫路間：1日約5.5往復）を運転しており、今後も継続する予定である。 ・事業5-④については、R3に掲載実績があるがR4は休止している。R5以降の実施については検討中。 ・事業6-①では、R3にマスタープランを策定し、それ以降は当該プランに基づき効率的かつ経済的な整備に中長期的に取り組んでいく。 ・事業6-②では、R4に整備の方針を決定し予算化した。R5に来館者用のWi-Fi環境を整備する予定。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業1については、概ね計画通り実施できており、姫路市の文化資源をテーマとした作品も制作されているが、それらの成果の発信と集客につなげる取組の充実が課題である。 ・事業1-⑥については、姫路市が創設した「ユニークベニューHIMEJIプラン」に基づき、姫路城等の他の姫路市施設と同じ制度の下で運用されていることから、美術館以外の施設での利用実績や様態等を比較検討した上で、美術館として利用の誘因になる魅力向上に向けた手を打っていく必要がある。庭園の活用という意味では、事業1-①において、市民団体が主催するストリートピアノとの連携企画を共催により実施しており（R4）、上記プラン以外の手段として、美術館が共催になることで他の事業主体による庭園の活用促進を図っていくことも検討の意義がある。 ・事業2について、多言語解説については概ね計画通り実施できている。既存の解説ツールの活用については、来館者用Wi-Fi整備と合わせた運用を目指しているが、具体的な使用や内容の精査についてはまだ不十分である。 ・事業3については、必ずしも美術鑑賞を目的としているわけではないお客様にも満足いただけるような、姫路市全域の多様な文化観光資源を活用したツアー造成のなかに美術館という場所・企画を位置づけることが肝要であると思われるが、商業ベースでそれを持続できるだけの体制や連携、ノウハウ等はまだまだ揃っていない。 ・事業4について、姫路城東休憩所の整備は今後も計画が休止状態になることが予想されることから、見直しが必要である。 ・事業5については、概ね計画通りに実施はできているが、集客数等の成果につながっていないことから、より効果的で迅速な対応を迫られている現状である。 ・事業6については、概ね計画通りに実施できている。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名
	姫路市立美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションギャラリーでの館蔵品展示に際して、作品画像と作品・用語解説をまとめた冊子を制作し配布（「鉄の技と美Ⅱ－姫路市立美術館の刀剣」展、「鉄の技と美Ⅲ－姫路市立美術館の刀剣」展） ・R3において、書寫山圓教寺をはじめ市内各地で1年を通じて展開した日比野克彦氏によるワークショップ（事業1-③）にて、会場となった各地の文化資源について解説（「圓教寺摩尼殿」（県指定文化財）、書寫山参道の歴史、江戸の町並みの風情が残る野里地区での町屋の歴史解説等） ・R4において、書寫山圓教寺常行堂（国指定重要文化財）内で実施した展覧会場（事業1-④）にて、堂内の《阿弥陀如来坐像》（国指定重要文化財）及び《二十五菩薩来迎図》の解説を配布 ・「庭園アートプロジェクト」（事業1-①）の鑑賞会等にて、姫路市立美術館建物（国登録有形文化財）や庭園に配置された館蔵彫刻作品13点を解説 ・「招聘作家&The Museum Collection」（事業1-⑤）にて、招聘作家とのコラボレーションによる新たな視点から館蔵品の新鮮な魅力を紹介
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・R3に姫路市立美術館公式SNS（Twitter・Instagram・Facebook）を開設し情報発信 ・3D撮影技術を用いた展示会場の撮影（撮影データの活用方法については現在検討中） ・解説アプリの活用に向けた解説文の充実
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・コロナ禍後のインバウンド回復に備えた、各種企画（事業1-①～1-⑤）紹介及び館蔵作品解説の多言語解説作成
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ツアーの造成、市内宿泊施設との連携仲介、各種観光キャンペーンとの連携について、本計画の共同申請者である姫路観光コンベンションビューロー（DMO）との緊密な連携体制を構築 ・姫路市を代表する文化・観光の拠点である書寫山圓教寺との事業共催を継続して実施 ・市内各所でのワークショップ実施を通じた多様な主体（市民・団体・施設管理者）とのネットワークの構築 ・共同申請者である(株)神姫バスとともに、姫路城・美術館・書寫山（ロープウェイ）の共通乗車券発行事業を実施 ・共同申請者である(株)神姫観光とともに、美術館をコースに組み入れたツアー造成のための連携体制を構築 ・共同申請者である山陽電気鉄道(株)とともに、入館券付き乗車券の発行事業や車両広告、広報誌等でのPR連携を実施
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・本計画の共同申請者である姫路観光コンベンションビューロー（DMO）が中心となり、姫路市観光部局とも連携しながら各種データ等の継続的な収集・分析を行う
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年3月に策定された「姫路市観光戦略プラン2022-2026」において、外国人観光客の誘致のための取組の一つとして「世界遺産姫路城を拠点とした文化観光の推進」が目指されるとともに、多様な観光コンテンツの発掘・磨き上げのための取組の一つとして本計画の主要事業である「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」が位置づけられている ・上記「観光戦略プラン」において、姫路市の総入込客数や旅行消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度といったKPIが設定されており、本計画におけるKPIとの整合性を図る調整を行う予定 ・姫路市とともに上記「観光戦略プラン」の推進において中心的な役割を担う姫路観光コンベンションビューロー（DMO）とともに、KPIの設定やPDCAサイクルの確立を進める予定

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
公益社団法人姫路観光コンベンションビューロー	<p>令和4年度の姫路市総入込客数は前年比65.2%増の6,953千人となったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が少ない令和元年度との比較では25.5%の減少となっていることから、市域全体の入込は回復途上である。一方、宿泊を伴う来訪者の動向としては、令和4年度の延べ宿泊者数は前年比31.7%増の1,239千人（令和元年度比では2.8%減）となり、ほぼコロナ前の状況に回復したといえる。アフターコロナ（ウィズコロナ）の観光消費の回復を目的とした様々な施策が、国・県・市の事業において展開されたことによるものである。令和4年度は、本プロジェクトを基に、DMOと宿泊事業者をはじめ多様な関係者、関係団体と連携する枠組みを継続しさらに発展できたことは意義深かった。DMOとして多様な関係者との連携により、当プロジェクトと連動した着地型旅行・体験商品の企画造成、プロモーションを行うことができ、プロジェクトの一員として役割は担えたと思う。今後、都市間競争のなかで、当プロジェクトをいかにターゲットに訴求し誘客に繋げるか、また地元関係者と事業検証や今後の戦略を共有することが重要であると思う。</p>

⑦今後の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回収率をより向上させるために、紙媒体だけでなく、webによるアンケート調査の実施を検討するとともに、項目・対象者についても再検討を行う。 ・観光誘客、経済効果に対する効果をより正確に把握するため、姫路市の観光戦略プランにおける各種目標値を踏まえ、市観光部局及び観光DMOとKPIの定期的な見直し・検証をこれまで以上に綿密に行う。 ・事業1-①～⑤については、広報宣伝が後手に回ることが続いていることから、各種広報宣伝物の制作・発信の迅速化と、市観光部局及びDMOが有するチャンネルの活用により、集客のための効果的なPRにつなげていく。 ・事業1-①については、無料エリアである庭園への来訪者は増加しているが、それらを館内の有料展示に誘導する仕組みづくりを行う。 ・事業1-③～⑤については、来場者に圓教寺と美術館を周遊していただくための情報の発信や、事業3に挙げる交通機関等の利便性向上の仕組みをこれまで以上に充実・連携させ、集客面での相乗効果を十分に発揮させる。 ・事業2-②については、引き続き姫路市の有形無形の文化資源を取り上げた「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」の内容及び館蔵品解説の多言語化に取り組みつつ、その成果をHPやSNS、解説ツール（事業2-①）により活用するところまでをこれまで以上に迅速に取り組んでいく。 ・事業3-⑧～⑩については、実施主体である観光事業者が自社事業として収益化できるよう、より観光客のニーズに応えられるコンテンツを拠点施設等が提供するための連絡会議等の実施を検討する。 ・事業1-⑥及び事業4-①については、姫路市全体の計画・制度に依拠するものであり、現状では成果につなげる取組を行うことが難しいことから、計画の見直しを検討したい。
